

石樽トンネルがつなぐ滋賀県との交流

～過去と未来をつなぐ交流の架け橋～

森 清光

石樽の里コミュニティ代表

■はじめに

「石樽の里コミュニティ」は、子どもの健全育成と学校支援、そしてこれらの活動を通じた地域づくりなどを目的に活動する地域住民で構成されたボランティア団体です。石樽地区がある三重県いなべ市は、県の最北端に位置しています。西は滋賀県、北は岐阜県に接する人口約4万6千人、面積約220k㎡の市です。私たちが暮らす石樽地区は、竜ヶ岳（標高1,099m 折からの登山ブームで、沢山の登山客が訪れています）の麓に広がる田園地帯にあり、地区の中央を東西に国道421号、南北に国道306号がそれぞれ走り、西は鈴鹿山脈を挟み滋賀県東近江市と国道421号でつながっています。



石樽小学校:校舎の屋根はお茶処石樽のお茶畑を表している
校舎の向こうには竜ヶ岳が見える

■古から続く滋賀県との交流

国道421号はその昔、伊勢の国と近江の国を結ぶ「江州街道」と呼ばれ、伊勢商人や近江商人が行き来した歴史のある道です。石樽地区はこの八風街道を通じて昔から近江の国（滋賀県）との交流がとて深い土地です。

このため、地域には古から交流があったことを示す言い伝が多く残っています。古くはその宝徳元年（1449年）、蓮如上人がこの江州街道を通して布教に訪れたとき、浄土真宗伊勢三大寺の一つ「照光寺」に滞在したとされています。また天保14年（1843年）、照光寺本堂の改築の陣頭指揮をとったのが、江州彦根の高木飛騨守とされています。最も興味深い言い伝えは、東近江市にある臨済宗の古刹「永源寺」が一夜にして石樽から近江の国へ引っ越したという「永源寺伝説」です。



臨済宗 永源寺(東近江市)

今も国道421号沿いの寺跡と言われる所には、数十メートルにも渡る石垣を見ることができ、さらには永源寺があったとされる辺りの字名（地名）がなんと！「永源寺」となっているのです。この真偽はわかりませんが、何か関係があるのではないかと歴史へのロマンをかきたたせます。



永源寺跡といわれる石垣

話は昭和時代に移ります。石樽地区では30年代まで炭焼が営まれ、炭焼き職人が石樽峠（標高約700m）を越えて滋賀県を行き来していました。60kgもの炭俵を担いでの峠越えは、大変辛く危険な仕事だったに違いありません。戦後、砂防工事などのため道路が整備され、自動車でも石樽地区から滋賀県へ抜けることができるようになりました。この道路が国道421号です。しかし、急峻な鈴鹿山脈を横断する道は、急こう配、急カーブが連続するため、2トン以上の大型車両の通行が禁止されたり、積雪による冬期の通行止めを余儀なくされたりしていました。大げさな言い方をすれば、峠越えは昔と同様に決死の覚悟が必要でした。このような道路事情から、関係自治体は「国道421号整備促進期成同盟会」を組織し、国や県にトンネル化の要望活動をしてきました。



旧国道421号石樽峠付近

■石樽トンネルの開通

約半世紀にも及ぶ要望活動など諸先輩方のご苦勞が実を結び、平成23年3月26日、いなべ市と東近江市を結ぶ国道421号に石樽トンネル（全長約4.2km）が開通しました。両市役所間の所要時間が2時間15分から1時間10分となり、約1時間もの短縮が実現しました。開通後には5,400台/12hもの通行があり、周辺のレジャー施設や商業施設の利用客も増加しました。トンネル開通が交通の利便性向上や地域間交流の活性化に大きく寄与したと言えます。



石樽トンネル開通区間

私たち「石榑の里コミュニティ」もこの記念すべきトンネル開通を祝い、将来の語り草となるようなイベントをしようということになりました。地域にトンネルができ、その開通に廻り合うという“生きている間に有るか無いかの出来事”に心が踊りました。そこで、3月19日に小学校からトンネルの入り口までの往復約9kmを歩く「石榑トンネル大遠足」を企画しました。大遠足の「大」の字に“一本のトンネルで結ばれ「人」が「一」つにつながる”の思いを込めました。ところが準備段階で東日本大震災が発生しました。開催直前まで中止すべきかを検討しましたが、こんな時こそ地域の絆を強くしなければならないとの意見が強く、遠足を敢行することになりました。当日は150人も参加があり、八風街道にまつわる歴史や地域の自然に触れながら歩くことができました。また、国土交通省滋賀国道事務所のご協力により、トンネル内が見学でき、更にはトンネルの概要や工事の状況を解説するパネルも展示していただき大好評でした。



石榑トンネル大遠足（平成23年3月19日実施）

石榑トンネルの開通によって、石榑地区と滋賀県とのつながりが広がっただけでなく、二度と出来ないイベントによって地域の絆もさらに強くなったのです。

■地域の絆をつなぐ石榑の里コミュニティ

私たち「石榑の里コミュニティ」は、子どもを守り育てる様々な取組みを通じて、地域の絆をつなぎ、みんなが誇れる故郷となることを目指しています。そこで紙面をお借りして「石榑の里コミュニティ」の紹介をさせていただきます。

活動のルーツは平成13年から始まった校舎の建替計画

を検討した建設委員会にあります。5年53回にも及ぶワークショップでは、建設に係る話し合いに止まらず、「子どもは地域の宝として地域全体で守り育て、学校を支援しよう！」という思いが紡ぎ出されました。これが「石榑の里コミュニティ」の活動理念となり、この理念を実現するために様々な取組みを進めています。

代表的な取組みとして、地域住民に開放された小学校のフロア「地域ゾーン」を管理活用し、地域住民が先生となった体験教室による放課後や休日の児童の居場所づくり。お茶摘み、炭焼き、酪農、米づくりなど地域をフィールドにした体験学習の支援。毎月1回、保護者や児童と一緒に学校の清掃や花壇の手入れ。通学路でもある国道306号の草刈り。地域住民の4分の1に当たる1,200人が集う「石榑の里まつり」の企画運営などです。詳しくはホームページをご覧ください。

これらの活動が評価され、昨年度「中部の未来創造大賞（中部の未来創造大賞推進協議会）」と「こどもたちの心を育む活動全国大賞（パナソニック教育財団）」をそれぞれ受賞しました。

写真：上から、お茶摘み、炭焼き、登下校の見守り、国道306号草刈り、石榑の里まつり



■過去と未来をつなぐ交流の架け橋

毎年秋には、石榑の里コミュニティの一大行事として「石榑の里まつり」が開催されます。トンネル開通前の一昨年には、プレ開通記念企画として、東近江市役所のご協力のもと、東近江市紹介ブースを



山上小学校児童の作品展示（平成23年度 石榑の里まつり）

を設けました。大凧会館からは大凧の小ぶりのものをお借りして展示したり、大凧まつりを紹介するDVDを上映し

たりして、トンネル開通の機運を盛り上げました。昨

年は、トンネルを挟んでお隣の小学校となった滋賀県山上小学校との交流第一弾として、ビデオレターの放映や児童の作品展示を行いました。山上小学校からもトンネルを

通って保護者や児童の参加があったことは嬉しい出来事でした。いずれも石樽トンネルの開通がなければ実現出来なかった交流です。

このように、トンネル開通直前には「石樽トンネル大遠足」で、古の交流に思いを馳せながら八風街道を歩き、地域の絆をつなぎました。トンネル開通後には、山上小学校との交流が始まり、両校の子どもたちのイキイキとした姿に、地域間交流の未来へと思いを巡らしました。まさに石樽トンネルが、過去と未来をつなぐ交流の懸け橋となったのです。

■むすびに

最後に、石樽トンネルの開通に係る一連の取組みで、改めて認識したことを述べ結びとします。それは、トンネルも学校も造ることが最終目的ではなく、いかに活用するかがその上位目的としてあるということです。利用することで得られる効用を私たち利用者が実感したときに始めて「インフラ」が「地域資産」になっていくのではないのでしょうか。そしてそこには、インフラに息吹を吹き込む「人」との関わりがなくはなりません。地域資産は人によって創られ、人に暮らしの豊かさをもたらしてくれるのです。

石樽トンネルも石樽学校も大切な地域の資産として、いつまでも息吹が吹き込まれ続けることを願ってやみません。

平成 24 年 7 月

○参考文献等

大安町史（大安町教育委員会）

国土交通省滋賀国道事務所発表資料

○参考

石樽の里コミュニティホームページ

<http://www.inabe.ed.jp/ishigure-c>